

地震の深さと揺れの範囲の関係について

令和8年8月23日に発生した茨城県南部を震源地とする地震では、茨城県、埼玉県、千葉県、東京都など広範囲にわたり最大震度5弱の揺れを観測しました。一方、令和8年7月28日に発生した熊本地震では、最大震度7ではありましたが、局所的な範囲での観測となりました。この最大震度を観測した範囲の違いは“震源の深さ”が関係しています。

一般的に震源が深い地震は、地下深くで発生するため、直下での揺れは穏やかですが、揺れが遠くまで伝わりやすく、広範囲にわたって影響を与える可能性があります。その一方で、震源が浅い地震は、地面に近い場所で発生するため、直下では強い揺れが発生しますが、揺れが遠くまで伝わりにくいという特徴があります。今回、8月に茨城県南部で発生した地震の震源の深さは約68km～70km、7月に熊本で発生した地震の震源の深さは約16kmであり、この“震源の深さ”の違いが最大震度の範囲に違いをもたらしたのです。

実は“震源の深さ”には、地域ごとの傾向があると言われています。先ずはご自身が住んでいる地域の“震源の深さ”について傾向を掴み、地震の揺れ方を理解することで、地震に対する『備え』をより効果的に行えるようになります。

今後は震度やマグニチュードだけではなく、“地震の深さ”にも着目してみてください。

〈 防災士 荻野 勝也 〉

ちなみに…

気象庁震源カタログの記録で「日本で最も深い」とされている地震は、2015年5月30日の小笠原諸島西方沖地震（M8.1、最大震度5強、深さ682km）の余震で、深さは698kmを記録しているそうです。この地震の本震は682kmと大変深い場所で発生したため、振動が広範囲に広がり全国47都道府県全てで震度1以上を観測しました。

〔出典：気象庁〕